

自然から学ぶ

(原文)

武内 優里香 (12 歳)

東京都

国土館中学校

私は、中学校生活の第一歩をふみだす。オリエンテーションに行ってきた。3 日目最終日、たか山ファミリー牧場にて、動物の命の大切さについて学んだ。

私は、少し軽い気持ちで牛の乳しぼりにいどもうとした。スタッフさんから、牛についてを学んだ。牛という動物は、人間と同じように命がある。牛からは牛乳が出るが、年をとるにつれて牛乳が出てこなくなる。そうすると、乳牛として、使われなくなり、殺されて肉になる。そういう話をスタッフさんから聞いた。私たち人間がふつうにいつも食べている肉、それは、生きたいと思っている牛に対して、自分たちが、生きるために牛の生きるという気持ちを押しきって殺してしまった大事なものだ。私たちは、生きたいと思えばいつかは死ぬが、それまでは生きられる。牛たちとはちがうのだ。そんな話をスタッフさんから聞いた後、乳しぼりをした。牛にふれ、命を感じる。それが本来の目的なのかもしれない。乳しぼりをしている時、牛乳を出した。牛にふれた時、あたたかくやさしい、命を感じた。そんな事を思いながら次の課題、ソーセージ作り、バター作りをした。ソーセージ作りでは、肉をまぜた。その肉は、牛の肉。ソーセージが完成した。バター作り。バター作りは牛乳をふって作る。楽しく作ったバター。牛はどんな気持ちだったのだろう。その後、ダッチオープンでバターとソーセージを使ってミルクポトフを作った。おいしかった。

自然から学ぶ。それは命について学ぶ事。たとえ、命は長く続かないとしても、最後まで、自分のやれる事をやりきる。そういう事なのだ。牛だけの問題ではない。豚・鳥・魚も同じなのだ。一日の生活のなかで、このように食べられてしまう命があった動物は、一回は食べていると思う。だから一日一回動物に感謝しよう。ごはんを食べるとき。心をこめて、「いただきます」を言いましょう。